

事業名：学力調査活用アクションプラン推進事業

推進地域名：福山市アクションプラン地域推進会議

推進地域を構成する学校

学校名	学級数	児童数
福山市立瀬戸小学校	19	538
福山市立新湊小学校	27	831
福山市立日吉台小学校	18	547

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい
研究テーマ

思考力・判断力・表現力等の育成
～授業改善及び家庭での学習習慣定着をとおして～
研究のねらい

【平成21年度学力調査 小学校結果】 (%)

	全国学力・学習状況調査				「基礎・基本」定着状況調査	
	国A	国B	算A	算B	国	算
市	73.3	54.0	82.0	56.1	75.5	79.9
県	72.9	53.8	81.3	56.6	75.0	79.8
国	69.9	50.5	78.7	54.8		

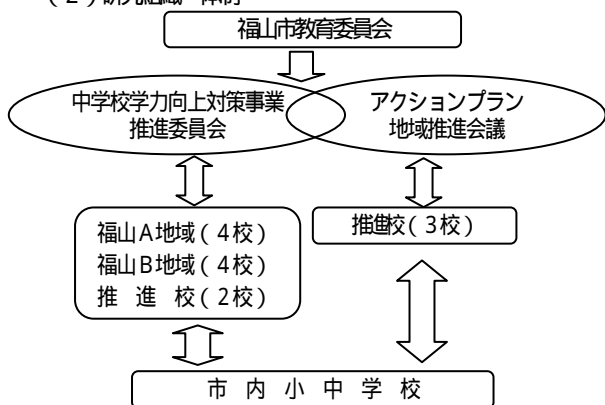
【平成21年度全国学力・学習状況調査児童質問紙 結果】 (%)

	宿題をしている	予習をしている	復習をしている
市	95.4	37.4	43.5
県	96.3	35.4	43.5
国	95.5	37.5	46.0

本市小学校では、平成21年度学力調査の結果、知識・技能を「活用する力」、「学習習慣」(宿題, 予復習, テスト直し)に課題があることが明らかになった。この結果は、昨年度と同様であり、改善に向けた具体的な取組みを行う必要がある。

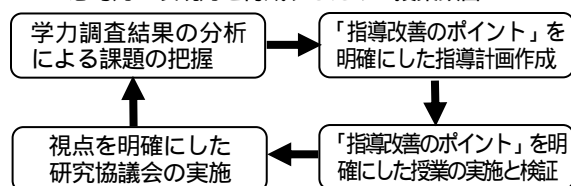
そこで、アクションプラン推進校を中心として、国語・算数の授業改善に向けた実践研究及び家庭での学習習慣の定着をめざした取組みを実施し、各小中学校は、アクションプラン推進校で行われる実践研究を本校の授業改善に生かしていくことで学力向上を図ることとした。

(2) 研究組織・体制



(3) 研究内容

思考力・表現力を育成するための授業改善



- 家庭における学習習慣の定着に向けた取組み
- 適切な学習課題の提示
- 予習・復習の方法等を示す「家庭学習の手引き」の作成
- 家庭学習の内容の評価
- 生活習慣の改善

2 授業改善の視点

- (1) 思考力・表現力を育成するための授業改善
学力調査結果の分析による課題の把握
- 調査問題の分析及び誤答状況の分析から、児童の「課題となる力」、教師の「指導上の課題」を明確にする。

【誤答を解答類型別に分析した例】

解答類型	正答						無答
	1	2	3	4	5	9	
ア						上記以外	無答
反応率(%)	41.0	5.1	5.6	21.6	22.9	0.6	3.3

なぜ4, 5の誤答が多いか実際の解答を見て分析する

「指導改善のポイント」を明確にした指導計画作成
・「指導上の課題」を改善し、「課題となる力」(思考力・表現力等)を育成するための具体的な手立てとして、「指導改善のポイント」とその成果を検証する評価問題を作成する。

「指導改善のポイント」を明確にした授業の実施と検証
・「指導改善のポイント」を授業で実施し、単元終了時に評価問題で検証する。

視点を明確にした研究協議会の実施

- 研究授業で実施された「指導改善のポイント」を視点にして、成果・課題・改善策を協議する。
- 思考力・表現力を育成する授業展開であったかを、授業チェックシートを使い評価する。

(2) 家庭における学習習慣の定着に向けた取組み

- 適切な学習課題の提示
- 指導案の指導計画に家庭学習を位置付け、授業内容と関連した課題を提示する。
- 自己目標を設定させるなど児童の意欲向上を図るための課題を提示する。

予習・復習の方法等を示す「家庭学習の手引き」の作成

- 中学校区内の小・中学校が連携を図りながら「家庭学習の手引き(予習復習の方法・場所・時間等)」を作成する。

・「家庭学習の手引き」を児童・保護者に示す。

家庭学習の内容の評価

- 家庭学習の定着へつながらる評価と指導を行う。

生活習慣の改善

- 中学校区内の小・中学校が、「家での約束」を作成、全家庭に配布し、小・中学校と各家庭が連携をして、生活習慣改善の取組みを進める。

【推進校が実施している「家での約束」の例】



(3) 推進校の連携・成果の普及

推進校の連携

推進校間の研究授業，協議会で，取組みの連携を図る。

成果の普及

- ・本事業による実践研究を各校へ普及させるために，研究授業及び協議会の日程，内容を周知し参加を募る。
- ・学習指導案のホームページ掲載等により改善モデルを普及させる。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

思考力・表現力を育成するための授業改善

- ・正答率のみに着目するのではなく，類型別に誤答を分析したことで，児童の「課題となる力」と「指導上の課題」を明確にすることができた。算数科の実践では，既習事項を活用し，提示された内容が正しいかどうかを判断させる学習活動を仕組むなど，思考させるための授業展開を行うことができた。国語科の実践では，「読むこと」と「書くこと」を関連させ，言語活動を通して指導事項の定着を図る単元構成，授業展開を行った。
- ・視点を明確にしたワークショップ型の研究協議を行ったので，「指導改善ポイント」の成果及び課題から次時へつながる改善策を協議することができた。

家庭での学習習慣の定着に向けた取組み

- ・指導案の指導計画に家庭学習を位置付けたことで，前時・本時・次時のつながりを意識した指導ができた。
- ・推進校を含む各中学校区で「家での約束」を作成し，全家庭へ配布することで，小・中学校が連携をして家庭学習の定着をめざす取組みの基盤作りができた。

推進校の連携及び成果の普及

- ・研究授業，協議会を市内小・中学校へ公開し，学力調査を活用した授業改善の具体的な方法を提案することができた。
- ・算数科の研究授業へ20校から29名，国語科の研究授業へ15校から19名の参加があった。



【協議会の様子】

【授業チェックシートへの参加者の記述】

- ・学力分析から自校の課題を焦点化させて，具体的に指導改善のポイントを考えた授業を仕組むことの大切さがよく分かった。
- ・誤答分析から改善点を明確にし，一人一人にどんな力を付けることが改善に結び付くのか，指導案作成の段階で十分研究することが必要であると学んだ。
- ・指導案に家庭学習欄を加え計画的に課題を出したい。

(2) 課題

思考力・表現力を育成するための授業改善

- ・思考力・表現力を育成するための具体的な手立てについて，多領域にわたる指導事例の蓄積が必要である。

家庭における学習習慣の定着に向けた取組み

- ・中学校区内の小・中学校が連携しながら「家庭学習の手引き」を活用するとともに，児童生徒の実態に応じて内容の改善を図ることが必要である。

推進校の連携及び成果の普及

- ・中学校からの研究授業，協議会への参加が少ない。

(3) 今後の取組み等

思考力・表現力を育成するための授業改善

- ・思考力・表現力育成の具体的な手立てについて，推進校で連携しながら教材研究等を行い，事例を蓄積する。
- ・家庭における学習習慣の定着に向けた取組み
- ・「家庭学習の手引き」の活用方法を検討し，小・中学校と家庭が連携を図りながら，定着に向けた取組みを続けるとともに，その成果を検証していく。
- ・推進校の連携及び成果の普及
- ・小中連携の視点からも中学校研究主任等が研究授業・協議会へ参加するよう促していく。
- ・中学校学力向上対策事業と関連させ，小・中学校を「つなぐ」視点で，推進委員会，研究授業，協議会を行う。

4 実践事例

思考力・表現力を育成するための授業改善

【福山市立日吉台小学校 - 算数 - 】

(1) 教科の調査結果の分析及び課題

平成21年度全国学力・学習状況調査 A[4] B[3]

【誤答分析】

- ・角の大きさに対する感覚が十分育っておらず，量感が養われていない。 A[4]
- ・計算処理だけをして，残金150円だったら，なぜ，もう1種類の品物が買えないかを説明していない。 B[3]

【課題となる力】

- ・角の大きさの見当を付ける力 A[4]
- ・分度器を用いて角の大きさを正しく測定する力 A[4]
- ・判断が正しい理由を式と言葉を用いて記述する力 B[3]

【指導上の課題】

- ・分度器を使って測る技能面の指導に重点を置き，基準となる角の大きさを基に，見当を付けてから測定させる指導が不十分である。 A[4]
- ・判断の正しさを説明させる場面を設定することが不十分である。 B[3]

【指導改善のポイント】

見当を付けて測定したり，判断の正しさを説明したりさせる。

【指導方法の工夫】

- ・基準となる角の大きさをもとに見当を付けさせる。
- ・誤答を提示し，既習事項を活用させて，間違いの理由を説明させた後，測定する方法を考えさせる。
- ・他者に説明させる場面を多く設定する。

(2) 第4学年

(3) 単元について

単元名「角と角度」

単元の目標

算数への関心・意欲・態度	・角の大きさに着目して，身の回りにあるものをとらえようとしている。
数学的な考え方	・角の大きさを単位のいくつ分で考えている。
数量や図形についての表現・処理	・分度器を使って角の大きさを測ったり，かいたりすることができる。
数量や図形についての知識・理解	・角の単位(°)を理解している。 ・分度器を使った角の測り方，かき方を理解している。

単元の展開(略)

(4) 授業の様子

- T : (180度より大きな角を提示) この角度を測ります。
先生は140度ぐらいだと思いますが、どうでしょう。
- C : 140度だったら、180度より小さいから180度より大きい角度だと思います。
- C : 180度より大きいから、分度器一つでは測れません。
- C : 180度と270度の間の角度だと思います。



【考え方の交流】

基準となる角の大きさをもとに見当を付けさせ、本時の課題確認を行った。

(5) 成果と課題及び改善点

成果

- ・基準となる角の大きさをもとに見当を付けさせることは、類推的な考え方をさせるのに有効であった。
- ・誤答を提示し考えさせることは、既習事項を活用し、演繹的に考えさせることに有効であった。
- ・他者説明をさせる場面を多く設定することは、既習事項を活用し、根拠を明確にして表現することに、有効であった。

課題

- ・算数的活動を通して、基盤となる量感を児童に十分身に付けさせていない。
- ・根拠を基に説明する力を十分に付けていない。

改善点

- ・操作的な算数的活動の場面をつくる。
- ・ペアや小グループでの活動、話型を活用する機会を増やし、一人一人が説明できるようにする。
- ・ノートに自分の考えを書かせることを系統的に指導する。

【福山市立新涯小学校 - 国語 -】

(1) 教科の調査結果の分析及び課題

平成21年度全国学力・学習状況調査 B 1 設問二

【誤答分析】

- ・調べてわかった結果と調べた理由とを関係付けて簡潔に書くことができない。
- ・段落の要点を正確に読み取ることができず、要旨をとらえることができていない。

【課題となる力】

- ・様々な種類の資料を関連付けて読む力
- ・事実と意見とを区別して書く力
- ・文章と資料とを関連付けて書く力

【指導上の課題】

- ・様々な種類の資料を関連付けて読ませ、段落の要点や要旨をつかませる指導が不十分である。
- ・目的や意図に応じて、文章と資料とを関連付け、自分の考えを効果的に書かせる指導が不十分である。

【指導改善のポイント】

効果的な伝え方を考えさせるために、構成・記述の仕方を理解させる。

【指導方法の工夫】

- ・筆者は何を伝えたいかのかを考えさせるために、文章構成をつかませる。
- ・意図や願いが伝わるように、報道スタッフとなり「特集」の原稿をまとめさせ、その効果的な伝え方を工夫させる。
- ・教材での学びを生かしながら、相手や目的を意識し効果的に配列しながら書くために有効なシートを作成する。

(2) 第5学年

(3) 単元について

単元名 目的に応じた伝え方を考えよう
「ニュース番組作りの現場から」
「工夫して発信しよう」

単元の目標

<国語への関心・意欲・態度>

- ・教材文を読み、ニュースや報道、伝えることなどに関心を持ち、筆者の意図をとらえようとしている。
- ・ニュースの伝え方や内容を工夫しようとしている。

<書く能力>

- ・目的や相手を意識し、書く必要のある事柄を整理し、効果的に配列しながら書くことができる。

<読む能力>

- ・文章構成をとらえ、形式段落ごとに要点をまとめ自分たちが番組を作るために必要な事柄を、時間の順序に従って段落ごとに整理することができる。

<言語についての知識・理解・技能>

- ・書いたり読んだりする際に、文章の中での段落相互の関係を理解することができる。

単元の展開(指導計画)

- ・学習内容と関連する家庭学習計画を指導案に位置付けた。

単元	学習内容(単元)	指導計画	家庭学習計画
1	「取材文を読み、筆者の意図をとらえよう。」(20)	取材文を読み、筆者の意図をとらえよう。	取材文を読み、筆者の意図をとらえよう。
2	「ニュース番組の構成をたどろう。」(20)	ニュース番組の構成をたどろう。	ニュース番組の構成をたどろう。
3	「ニュース番組の構成をたどろう。」(20)	ニュース番組の構成をたどろう。	ニュース番組の構成をたどろう。
4	「ニュース番組の構成をたどろう。」(20)	ニュース番組の構成をたどろう。	ニュース番組の構成をたどろう。

授業内容と関連する家庭学習計画

(4) 授業の様子

効果的な情報発信をするために原稿の書き方を理解する場面

放送原稿の例文を読み、既習事項を生かして、よい点や改善点を見付け、発表した。発表内容を整理し、『4つのポイント』にまとめ、情報を発信するために、大事にしなければならないことを確認した。

『4つのポイント』

- ・耳で聞いて分かりやすい言葉を選ぶ。
- ・初めに結論を言い、理由を後から述べる。
- ・一文は短くし、主語と述語の間なるべく空けない。
- ・ひと目で分かるように、地図や表などを用意する。

教材文から学んだことを生かして原稿を推敲する場面

教材文から学んだ原稿の書き方を活用して、写真との関係を考え、グループごとに原稿を推敲した。
意図や願いが伝わるように、制作スタッフになりきり、「頭括型」の文章構成で書くことができるようになった。

推敲した原稿を発表し、感想を交流する場面

推敲した原稿を発表し、スタッフとしての意図や願いが伝わる内容であるかどうか、全体で意見を出し合った。



【推敲結果の交流】

(5) 成果と課題

成果

- 目的や意図に応じ、自分の考えを効果的に書く力が育った。
- キーワード、キーセンテンスに着目することで、根拠を明確にした発言が増えてきた。
- 思考の流れにそって、ワークシートを作成することで、自分の考えをまとめ易くなってきた。

課題

- 「書くこと」の指導において、文章と資料（表やグラフ等）とを関連付けて書く力をつける学習活動をより多く設ける必要がある。
- 児童が興味・関心をもって練り合えるよう、発言の取り上げ方を工夫し、板書に整理する必要がある。
- 授業における学習内容と家庭学習の内容の関連性を一層高める必要がある。

**家庭における学習習慣の定着に向けた取組み
【福山市立瀬戸小学校】**

(1) 中学校区取組み(中学校1校・小学校3校)

昨年度、小中学校とそれぞれのPTAが連携をして、9年間の育ちの姿を見据え、児童・生徒の生活習慣や学習習慣を確立するために、リーフレットを作成し、今年度4月に各家庭に配付した。

『済美中学校区：家での3つの約束』

- 早寝・早起き・朝ごはん
- 家族であいさつ、語り合い
- 家庭でルールを決めて守ろう

今年度は、4校の教務主任が集まり、学校評価システムを活用した指導方法の工夫改善をするために『済美中学校区小中連携デザイン』の骨子を作成した。

これをもとに校区で合同夏季研修会をもち、具体策を練り、共通認識をもった取組みができるよう指標を作成した。

(2) 学校の取組み

『済美中学校区小中連携デザイン』にのっとり、児童が主体的な学びができるように、家庭学習の習慣化を図るための手引書(案)を作成している。

【手引書(案)例】

・概要版 1

- 「1 家庭学習の効用」「2 学習習慣づくりのポイント」「3 親子でふれあい、学力アップ」「4 中学校の家庭学習の習慣へつないで」で構成



済美中学校 家庭学習の手引きより

学習習慣は3点固定で - 3点とは、開始時刻・場所・学習時間-

- 1 自分で始める時刻を決める。
- 2 毎日同じ場所で学習する。(机上には学習用具だけ)
- 3 学習時間をしっかり確保
1・2年生 60分以上 3年生 90分以上

・概要版 2

- 「1 家庭での学習を習慣化しよう」「2 家庭学習の取組み」「3 各学年で必要な身に付けておきたい力」で構成

家庭学習のすすめ
福山市立瀬戸小学校

小中学校の学習は、授業外において自ら学ぶための活動が多くなります。特に、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を目標として、読み書きの力を伸ばすことが大切です。家庭学習は、学校で学んだことを復習したり、新しい知識や技能を身につけたりする大切な時間です。毎日一定時間、一定場所で学習することは、学習の習慣化につながります。親子で一緒に学習に取り組むことは、学習の楽しさや大切さを伝えることができます。

3 各学年で必要な身に付けておきたい力

<p>1 家庭での学習を習慣化しよう + 学力アップにつながる学習習慣</p> <p>学習時間・場所は、毎日一定時間・一定場所で行うことが大切です。机の上には学習用具だけを置き、他のものは片付けておくことが大切です。</p> <p>学習の姿勢や姿勢、姿勢が崩れると学習効果が下がります。正しい姿勢で学習することが大切です。</p>	<p>2 家庭学習の取り組み 親子で一緒に取り組むことが大切です。親子で一緒に取り組むことで、学習の楽しさや大切さを伝えることができます。</p> <p>親子で一緒に取り組むことで、学習の楽しさや大切さを伝えることができます。</p>	<p>3 各学年で必要な身に付けておきたい力</p> <p>1年生 教科書を読み、内容を理解し、書きを覚えることができる。 図の中心線は、書きの目安となる。 鉛筆の持ち方を覚えることができる。 鉛筆の持ち方を覚えることができる。</p> <p>2年生 教科書を読み、内容を理解し、書きを覚えることができる。 図の中心線は、書きの目安となる。 コンパスを使って図形を描くことができる。 コンパスを使って図形を描くことができる。</p> <p>3年生 教科書を読み、内容を理解し、書きを覚えることができる。 図の中心線は、書きの目安となる。 コンパスを使って図形を描くことができる。 コンパスを使って図形を描くことができる。</p>
--	--	--

3年

句読点に気をつけながら、すらすらと気持ちをこめて読むことができる。
配当漢字のすべてが読め、8割以上を書くことができる。
話の中心をはっきりさせて文章を書くことができる。
かけ算の筆算やわり算を正確にできる。
コンパスを使って図形を描くことができる。
国語辞典を正しく使える。
簡単な地図記号が分かる。

これらの手引書には、低・中・高学年ごとに家庭学習ができる環境作り、時間、内容等を記載した。

12月中に配付し、児童が自分で計画しながら家庭学習をするよう手引きを活用した継続的な取組みを進めていく。作成に当たっては、児童・担任にアンケートを実施し、実態把握をした上で小中連携デザインに対応した内容にした。また、PTAと連携し、保護者に協力を呼びかけながら、学校と家庭が一体となった取組みを行っている。